

ろうさい ニュース

～今月のトピックス～
2月2日(木)より毎週木曜日に
眼科外来の午後診察を
開始いたします。
従来の月・金の午前中に加え
木曜日の13:30～16:00
も診察いたします。

浜松労災病院 地域医療連携広報紙 第330号 平成24年2月号

■ 第11回 浜松労災病院 地域医療連携講演会のご案内

開業医の先生方を対象に開催いたしますので、多数のご参加お待ちしております。

日時 平成24年2月29日(水曜日) 19:30～20:30

会場 浜松労災病院 6階 大会議室

演題 「浜松労災病院麻酔科 診療業務の紹介」

～ 新しい病院に新しい発想を求めて ～

講師 木倉 睦人 麻酔科部長

※日本医師会生涯教育制度履修単位1単位

お問合せ先 地域医療連携室

TEL 053 (411) 0366・FAX 053 (411) 0315 鈴木



■ 日曜日に乳がん検診

2月19日(日)に乳がん検診を実施します。

仕事や家庭の事情などで平日に受診できない女性の便宜を考慮しました。

検診内容はマンモグラフィと視触診でマンモグラフィは女性の認定放射線技師が担当しております。

詳細につきましては、健診係までお問い合わせ下さい

日曜日に乳がん検診
浜松労災病院(浜松市東区)に於けるが、開業医は平日の診察時間外に、2月19日(日)に乳がん検診を実施いたします。検診内容はマンモグラフィと視触診です。マンモグラフィは女性の認定放射線技師が担当いたします。検診時間は10時から14時です。検診料は無料です。検診を受けるには、検診券が必要です。検診券は、検診係までお問い合わせ下さい。



「乳がんは早期発見が最大の予防」と検診を呼びかけるのが浜松市東区労災病院の放射線科部長

■ 心臓ドックのご案内

2月より、循環器内科で心臓ドックの健診を始めます。人間ドックの範囲内では早期診断が難しい心臓周辺を検査するため、超音波検査をはじめ、冠動脈造影CT、心エコーや食事や栄養の指導まで行っております。

詳細につきましては、健診係までお問い合わせ下さい。

心不全や心筋梗塞 早期発見

浜松労災病院(浜松市東区)は2月より、心臓ドックの健診を始めます。人間ドックの範囲内では早期診断が難しい心臓周辺の動脈硬化を検査するため、冠動脈造影CT、心エコーや食事や栄養の指導まで行っております。心臓に特化した検診は県内でも珍しいといわれています。

来月から 栄養指導も

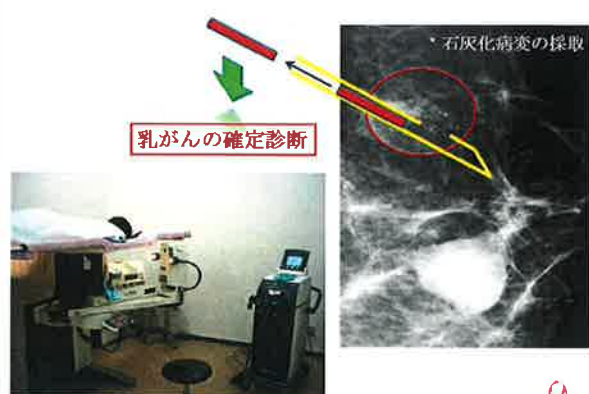
浜松労災病院(浜松市東区)は2月より、心臓ドックの健診を始めます。人間ドックの範囲内では早期診断が難しい心臓周辺の動脈硬化を検査するため、冠動脈造影CT、心エコーや食事や栄養の指導まで行っております。心臓に特化した検診は県内でも珍しいといわれています。

浜松労災病院が心臓ドック

■ 腹臥位タイプのマンモトムシステム稼働中!!

昨年秋に新規導入しました腹臥位型のステレオガイド下マンモトムは、静岡県下でも導入病院の少ないタイプのマンモトムです。

このタイプのマンモトムは患者様が腹臥位になることで緊張を和らげ、また患者様が生検処置を目の当たりにすることがないため生検への恐怖感が和らぎリラックスして安全で確実な生検を受けていただけます。マンモトムが導入されたことで乳腺疾患のすべてに対応することが可能になりました。これからも患者様の御紹介を宜しくお願いいたします。



乳がんの確定診断



石灰化病変の採取

Hamamatsu Rousai Hospital

詳しくは、一度当院のホームページをご覧ください。

乳腺外科ホームページ http://www.hamamatsuh.rofuku.go.jp/05geka01_n.html

放射線科ホームページ <http://beam.hamamatsurousai.com/>

病院の理念 「仁愛」 ヒューマニズムとアカデミズム

■ 平成23年度 産業保健セミナーの開催報告について

1月16日(月)・18日(水)平成23年度産業保健セミナーが開催されました。両日で86名もの御参加をいただきありがとうございました。以下は内容の一部をご紹介します。

「働く人のメンタルヘルス」～自分も家族も職場(会社)も静岡も日本も元気にする～

横浜労災病院 勤労者メンタルヘルスセンター長 山本 晴義 先生

平成24年1月16(月)14:00~16:00 大会議室



精神疾患にかかり、2010年度に労災申請した人は前年度より45人増の1,181人で、2年連続で過去最多となりました。仕事が原因でうつ病になったり、自殺したりといった労災事案を防ぐためにも、職場はメンタルヘルスに取り組まざるを得ません。今やメンタルヘルスはリスクマネジメントとなっております。

現在私は、365日24時間態勢で無料メール相談を行っております。誰かに相談したい、でも、精神科は敷居が高い部分もございます。その点、メール相談はアクセスのしやすさ、気軽さが最大のメリットとなっております。開設当初は100件程度でしたが、今年年間7,000件を超える件数に増え、それだけニーズがあることを実感しております。

メンタルヘルスにつきましても、重要となるのが予防です。その対策として啓発活動に力を入れております。つまり、予防に力を入れなければならないほど病気になる要因が職場にあるということになります。

例えば、まずストレスフルな勤労者が非常に多いということです。もちろんストレスをためることが即病気に繋がるものではありませんが、病気の予備群であることは事実です。

次に、働いている人の自殺者が多いこと。今、日本全国の自殺者が3万人いるなかで、労働者の自殺者が8,000~9,000人、そのうちおよそ2,500人が仕事上の悩みが直接の原因で自殺しております。

また、現実問題として、うつ病など心の病気によって起こる自殺が労災の対象になってきたこと、いわゆる怪我による労災も防止すべきであると同時に、仕事が原因でうつ病になったり、自殺したりといった労災事案を防がなければなりません。

ところで、病気になり長期休暇となってしまった場合は、復職という問題があります。復職につきましても、「安心」、「安全」、「安定」。この3つの「安」が不可欠であり、休んでいるときから復職に向けて準備をする必要があります。休んでいる時に放ったらかしでは復職は難しくなります。本当に戻れるかどうかを決めるのは会社です。そして、それがゴールではなく、アフターケアも会社の役割だと考えております。

私は勤労者医療にとっての健康観は、「今日、この会社で働ける幸せ」「この家族と暮らせる幸せ」「この日本で暮らせる幸せ」を感じてもらうことです。初めにお話したメール相談は、そのための1つの手段だと考えています。



「知っておきたい腰痛の最新知識と今日の腰痛対策」

関東労災病院 勤労者筋・骨格系疾患研究センター長 松平 浩 先生

平成24年1月18(水)14:00~16:00 大会議室



腰痛は、原因の特定ができる特異的腰痛は、受診する腰痛患者の15%くらいの割合といわれております。腰痛の多くは、原因疾患が特定しきれない非特異的というトリアージに含まれるものがほとんどであり、これは、特に慢性腰痛(慢性非特異的腰痛)は、身体的・器質的な問題だけでなく、重要な予後規定因子である心理的ストレスや働きがいの低さなどといった心理・社会的な側面の問題が多かれ少なかれ絡んでおります。

従来、腰痛は伝統的に「治るまで安静を保つ」ということを指導されてきました。しかし、私は「痛み範囲内で仕事はできるだけ休まず普段の活動を維持する」ことが望ましいと考えております。

短期間であれば安静という患部を休める行為そのものが悪いというわけではありません。それよりも、腰痛に対する恐怖感や悲観的・破局的な考え、そして身体を動かすことへの不安感が強まり普段どおり活動することを回避することが、かえって腰痛が慢性化することや再発を繰り返すことに深く関与していると考えられるようになったからです。

腰痛は、多くの人が経験する生活習慣痛で繰り返しやすい特徴を持つものではありませんが、前述した感染や癌など悪い病気が原因の危険な腰痛ではないぎっくり腰などの単なる腰痛(非特異的腰痛)は、「決して恐れるものではなく、痛みがあっても心配せずできるだけ普段どおりに仕事や生活をしましょう」という安心感と希望を与える指導をしたほうが、腰痛に悩まされる危険性が減ることがわかってきました。加えて、業務上疾病発生件数で最も多い腰痛に伴う休職率も減らすことができるものと期待されます。

一方、仕事に支障をきたす腰痛にはストレスを代表とする心理・社会的側面が強く影響することがわかってきました。過度のストレスや疲労には休養が不可欠です。腰痛があるだけでなく疲労やストレスが蓄積していると判断できる勤労者に対しては、「腰痛のために休ませる」のではなく、「ストレスや疲労(腰痛はその中の一症状)を回復してもらうために休ませる」という認識で十分な休養を与えることが肝要です。もし、病欠が発生した場合には、産業医を含む事業所側と治療者側で密に連携し、復帰しやすい環境を整えることが肝要です。



■ 浜松労災病院 診療科紹介（その3）

・外科

特色・症例	外科の治療方法は近年大きく変貌し日進月歩の状況です。新しい治療方針、治療技術によって患者さんは大きな恩恵を受けることができるようになりました。私たちは新しい技術（内視鏡的切除術、腹腔鏡下切除術、癌化学療法など）を導入・熟練し浜松の人々にその恩恵を享受していただくよう努力しています。			
手術例	外科では胸・腹部の消化器系の手術をすべてこなしています。よく取り扱いをする疾患は以下の通りです。 消化器系の悪性腫瘍（食道、胃、大腸、直腸、肝、胆道、膵）、胆石症、胆嚢ポリープ、炎症性腸疾患（胃・十二指腸潰瘍穿孔、腹膜炎、急性虫垂炎、潰瘍性大腸炎、クローン病など）、腸閉塞、腹部外傷、ヘルニア、肛門疾患（痔核、痔瘻、裂肛）			
スタッフ	部長	テラタニ 寺谷	ナオキ 直樹	<ul style="list-style-type: none"> ・日本外科学会認定医 ・日本外科学会専門医 ・マンモグラフィー撮影認定医
	部長	イノウエ 井上	ハルタカ 立崇	<ul style="list-style-type: none"> ・日本外科学会認定医 ・日本外科学会専門医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医
	部長	カガノイ 加賀野井	ジュンイチ 純一	<ul style="list-style-type: none"> ・日本外科学会認定医・専門医 ・日本乳癌学会所属 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 ・日本消化器外科学会認定医 ・マンモグラフィー撮影認定医
	副部長	イワイ 岩井	アキラ 輝	<ul style="list-style-type: none"> ・日本外科学会認定医 ・日本外科学会専門医
	医師	タノウエ 田上	タカユキ 貴之	<ul style="list-style-type: none"> ・産業医学基本講座終了

・小児科

特色	医学の急速な進歩により、医療は専門化が進んでいますが、小児科では、生まれた瞬間から15歳までのあらゆる病気を診ています。 当院では、日本小児科学会認定研修施設であり、近隣の開業医の先生方と緊密に連携し、入院患者を紹介していただく他、浜松市の二次救急を引き受けており、浜松市夜間救急からの紹介も受けています。また、二次救急、あるいはご紹介いただいた高度医療を必要とした患者の入院診療の他、小児特有のご両親の悩み、相談も随時、外来で受け付けております。特に、発達相談、登校拒否などには、専門の心理カウンセラーもいます。			
対象疾患	肺炎、気管支炎、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、嘔吐・下痢症、急性胃腸炎、熱性痙攣、てんかん、急性腎炎、ネフローゼ症候群、川崎病、心身症、不登校等			
スタッフ	部長	タナカ 田中	トシロウ 敏郎	<ul style="list-style-type: none"> ・日本小児科学会小児科専門医・指導医 ・日本小児科医学会子どもの心相談医 ・日本体育協会認定スポーツドクター
	医師	エグチ 江口	ヒロシ 尋	<ul style="list-style-type: none"> ・日本医師会認定産業医

■ 平成24年1月分 紹介関係件数等

1. 紹介件数 486件（23年度累計5,080件）
2. 救急搬送件数 332件（23年度累計2,568件）
3. 紹介率 76.1%（23年度累計74.6%）
4. 逆紹介件数 321件（23年度累計3,849件）
5. 逆紹介率 37.4%（23年度累計44.6%）
6. 共同診療件数 9件（23年度累計40件）

独立行政法人 労働者健康福祉機構

浜松労災病院

地域医療連携室

〒430-8525

浜松市東区将監町 25

TEL 053(411)0366

FAX 053(411)0315

月～金 受付時間 8:15～18:00